

1. 課題区分・管理番号 地域活性化課題・28-c006
2. 研究テーマ名 多様性を持った人材創出のための教育とその場のあり方
3. 研究期間 平成28年8月1日 ～ 平成29年3月31日
4. 研究代表者 工学部／総合デザイン工学科（職名）教授（氏名）松井 淳
5. 課題提案者 一般社団法人 前橋まちなかエージェンシー 代表 橋本 薫

6. 研究成果の概要

下欄には当該研究成果について、その具体的内容、意義、重要性等を、地域課題研究事業計画書に記載した「研究目的」と「研究計画・方法」に照らし、A4で2～3枚程度で、できるだけ分かりやすく記載願います。文章の他に、研究成果を端的に表す図表を貼り付けても構いません。本学HPにて公表しますので、公表できる内容としてください。

■はじめに

これからの前橋中心市街地を考えるに当たり、「創造都市」(Creative City) *1を目指すことが建設的な方向性であると考えます。

*「創造都市」: まちづくりの新しい価値の創造は、他者から与えられるものではなく多くの人々の試行錯誤と熱意による。現在、グローバル化と知識情報経済社会を背景に、文化芸術と産業経済を重視した「創造都市」(Creative City) という都市の在り方が現れてきている。2つのソウゾウリョク（想像力と創造力）を駆使しまちの新しい価値を創造し、その自身と誇りを糧に将来を切り開くという考え方。「前橋工科大学 まちなかラボ（仮称）」（以後「まちラボ」と表記）は「創造都市」を具現化するための1拠点であり、本計画の初期段階の「まちなか工作室」というモノづくりに特化した施設から、ヒトづくりも行う施設への方向修正を行った。

■背景

前橋工科大学 建築学科、総合デザイン工学科、大学院建築学専攻の授業、卒業研究、修士研究のテーマの中に前橋中心市街地を扱った研究が数多くある。その成果を中心市街地内の展示空間を使い、多くの市民の方々にも見ていただき、また参加できるような発表会を行ってきている。前橋工科大学に採り前橋中心市街地は教員・学生が研究をするに当たり、良い教材といえよう。前橋中心市街地で考え提案されたことが徐々に多くの方々に理解されていくなれば、「創造都市」の具現化にも近づくことになる。

■「まちラボ」の役割 I

「まちラボ」は前橋中心市街地について調査・研究を行う際の研究室の役割を担う施設であり機動性のある研究の拠点としての役割を果たす。

研究の成果は大学キャンパス内だけではなく「まちラボ」を会場として発表を行う。この発表は先ず、前橋中心市街地にまつわる研究になるであろうが、「創造都市」を目

指すためには、本学の他学科の成果を發表することにより、新しい研究が行われ、時代が変わりつつあることを多くの人々に伝えることができよう。

■「まちラボ」の役割Ⅱ

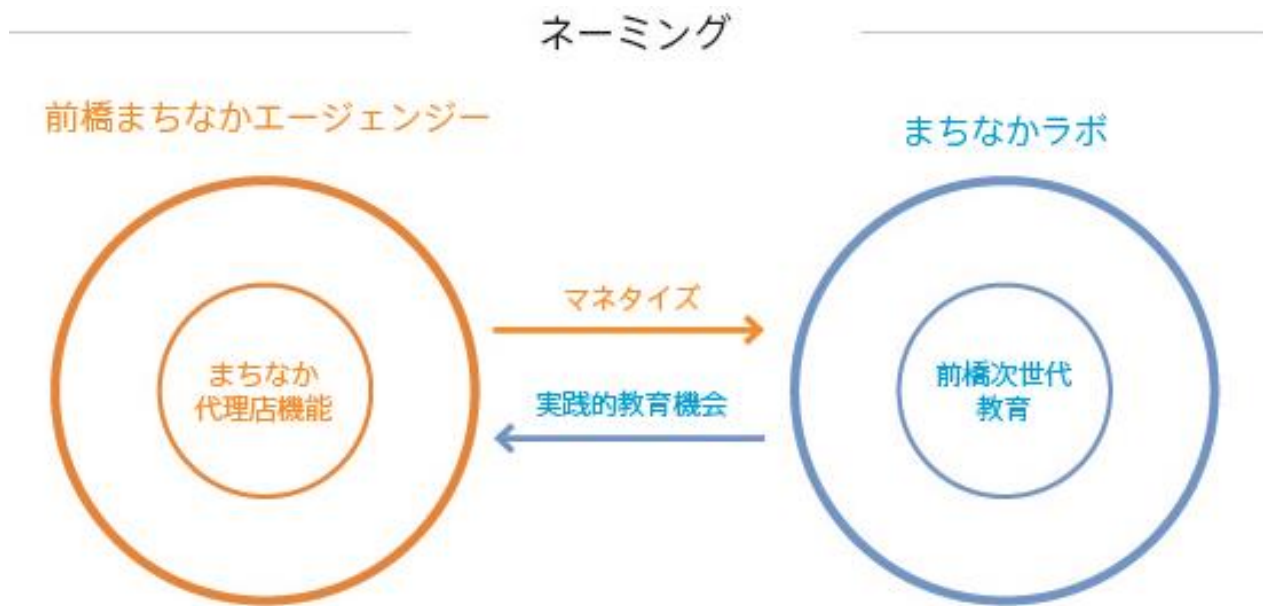
前橋工科大学のサテライトラボは排他的ではない。前橋工科大学が中心になるとしても、他の大学、研究者にも開放される施設である。

また、中心市街地内のアーツ前橋関連展示スペース、創業支援センターなどとも連携を取りながら運営することにより、想像的かつ創造的な中心市街地の拠点の一つとなることを目指すものである。

■具体的事業概要

「まちラボ」は前橋工科大学のサテライト施設であるが、上述のとおり他の研究機関、大学などに開かれた空間である。本施設の運営は「前橋まちなかエージェンシー(MMA)」が行うが、本研究は課題提案者である MMA と議論しながら作成を行ったことを記しておく。

本施設は既存の教育環境を超え、より実践的かつ横断的な人材を育成するための教育環境となることを目指すものである。以下の図に示すよう MMA が官民共同の「公理的デザイン業務を行う代理店機能」を担い、「まちラボ」に参加する学生は新しい実践的かつ創造的な教育を受ける機会をもつことになる。前橋工科大学は県外出身者が多いが、新たな人材育成プログラムにより卒業後も前橋市に留まり、創造的活動が行えることを期待するものである。



MMA は現在進行中のまちなか再開発にまつわる製作業務を引き受け経済面での利益を生むことで自律的かつ持続的な運営を実現する。製作業務は実践的であり、まちなかに留まらず、前橋市に統一的な創造性をもたらすことを目指している。その実践的作業に学生が参加することにより、新たな教育・研究環境で自立的能力を高めると共に、将来的に前橋市を担う人材育成が進むことを目標とする。

■本施設は平成29年度から稼働始めるが本市では初めての試み故、考えながら走る状態になろう。結果は直ぐに出るものではないと考えるが共感者を募っていく意志をもち運営を進めるものである。

